

「持続可能な開発目標」(SDGs) について



SDGsを通じて、豊かで活力ある未来を創る

SDGs (持続可能な開発目標)

2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標(その下に、169のターゲット、232の指標が決められている)。特徴は、以下の5つ。



普遍性 先進国を含め、全ての国が行動

包摂性 人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」

参画型 全てのステークホルダーが役割を

統合性 社会・経済・環境に統合的に取り組む

透明性 定期的にフォローアップ

前身: ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)

● 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したもの。

● 発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標を設定。

(①貧困・飢餓, ②初等教育, ③女性, ④乳幼児, ⑤妊産婦, ⑥疾病, ⑦環境, ⑧連帯)

- ✓ MDGsは一定の成果を達成。一方で、未達成の課題も残された。
- 極度の貧困半減(目標①)やHIV・マラリア対策(同⑥)等を達成。
- × 乳幼児や妊産婦の死亡率削減(同④, ⑤)は未達成。サブサハラアフリカ等で達成に遅れ

環境
(リオ+20)

人権

平和

SDGs実施に関する国内基盤の整備と政府の具体的取組

2015年9月

SDGsを採択した国連サミット
安倍総理から、SDGs実施に
最大限取り組む旨を表明



2016年
5月

〔第1回会合〕SDGs推進本部設置

- 総理を本部長，官房長官・外務大臣を副本部長，全閣僚を構成員とする**SDGs推進本部**を設置。
- SDGs推進本部の下に，広範な関係者（行政，NGO・NPO，有識者，民間セクター，国際機関，各種団体等）が集まり意見交換を行う**SDGs推進円卓会議**も設置。



G7伊勢志摩サミット
SDGs採択後初のG7サミット
として国内外の実施にコミット



12月

〔第2回会合〕『SDGs実施指針』策定

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 有馬 利男 | GCNJ代表理事 |
| 稲場 雅紀 | SDGs市民社会ネットワーク代表理事 |
| 大西 連 | 自立生活サポートセンター・もやい理事長 |
| 春日 文子 | 国立環境研究所特任フェロー |
| 蟹江 憲史 | 慶應義塾大学大学院教授 |
| 黒田 かをり | 社会的責任向上のための
NGO/NPOネットワーク事務局長 |
| 河野 康子 | 全国消費者団体連絡会前事務局長 |
| 近藤 哲生 | 国連開発計画駐日代表 |
| 高橋 則広 | GPIF理事長 |
| 竹本 和彦 | 国連大学サステイナビリティ高等研究所所長 |
| 田中 明彦 | 政策研究大学院大学長 |
| 根本 かおる | 国連広報センター所長 |
| 二宮 雅也 | 日本経済団体連合会企業行動・CSR委員長 |
| 元林 稔博 | 日本労働組合総連合会総合国際局長 |

2017年
6月

〔第3回会合〕『ジャパンSDGsアワード』創設

国連ハイレベル政治フォーラム
（閣僚級，7月，ニューヨーク）にて
日本の「自発的國家レビュー」を発表



12月

〔第4回会合〕
『SDGsアクションプラン2018』の公表，
第1回「ジャパンSDGsアワード」の開催により，
官民によるSDGsの主要な取組を発信

『SDGsアクションプラン2018』の概要 (SDGs推進本部第4回会合において決定)

- 日本は、SDGsの推進を通じて、創業や雇用の創出を実現し、少子高齢化やグローバル化の中で実現できる「豊かで活力ある未来像」を、世界に先駆けて示していく。そのため、日本ならではの「SDGsモデル」を構築。
- 『SDGs実施指針』における8つの優先分野に総力を挙げて取り組むため、政府の主要な取組を盛り込んだ。

日本の「SDGsモデル」を特色付ける大きな柱として、次の三つを掲げた。

SDGsと連動する「Society 5.0」の推進

- SDGsが掲げる社会課題に対応すべく「Society 5.0」や、「生産性革命」を実現。
- 経団連「企業行動憲章」の改定を支持・後押し。

企業への支援策等を年央までに検討。
・ベンチャー企業支援を含む「SDGs経営推進イニシアティブ」
・SDGsのための科学技術イノベーションの推進 等

SDGsを原動力とした地方創生、強靱で環境に優しい魅力的なまちづくり

- 各地方のニーズや強みを活かしながらSDGsを推進。
- 政府が一体となって、先進的モデルとなる自治体を支援しつつ、成功事例を普及展開。



・「自治体SDGsモデル事業」を新規創設し、政府一体となった支援体制を構築。
・東京オリンピック・パラリンピック開催準備や万博誘致を通じて、SDGsの認知度向上と実施を推進。


SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント




- 国内では、「働き方改革」、「女性の活躍推進」、「人づくり革命」などを着実に実施。
- 国際協力では、「人間の安全保障」に基づき、保健、女性、教育、防災等への支援を推進。

・SDGsを主導する次世代の育成を強化。
・「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)」の推進に向けて、今後約29億ドルを支援。

2018年は、「日本SDGsモデル」の方向性を踏まえつつ、モデル具体化に向けて、『SDGs実施指針』の8分野に関する政府の主要な取組に注力。


 **①あらゆる人々の活躍の推進**

- 働き方改革の着実な実施
- 女性の活躍推進
- 心、情報、交通の「バリアフリー」
- 次世代の教育振興
- 若者・子供、女性に対する国際協力

 **②健康・長寿の達成**


- データヘルス改革の推進
- UHC推進のための国際協力
- 感染症対策の研究開発

等

 **③成長市場の創出，地域活性化，科学技術イノベーション**


- 自治体SDGsモデル事業の実施
- 「Connected Industries」の推進
- 「i-Construction」の推進
- 農業人材力の強化

等

 **④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備**


- 「コンパクト＋ネットワーク」推進
- 「レジリエント防災・減災」の構築
- 防災に資する廃棄物処理・浄化槽等の整備
- 質の高いインフラ投資

等

 **⑤省エネ・再エネ，気候変動対策，循環型社会**


- 東京オリンピック・パラリンピックに向けた持続可能性の配慮
- 再エネ・省エネの導入
- 循環型社会の構築
- 食品廃棄物・食品ロスの削減

等


 **⑥生物多様性，森林，海洋等の環境の保全**

- 持続可能な農業の推進，林業の成長産業化
- 「国立公園満喫プロジェクト」推進
- 総合的海洋観測網の構築，海洋資源の持続的利用推進

等

 **⑦平和と安全・安心社会の実現**

- 子供の不慮の事故，性被害の防止
- 再犯防止対策の推進
- 女性に対する暴力根絶
- 「法の支配」の促進に関する国際協力
- 平和のための能力構築

 **⑧SDGs実施推進の体制と手段**

【広報・啓発の推進】

- SDGsの認知度向上のための広報・啓発
- 「ジャパンSDGsアワード」の実施
- 2025年万博誘致を通じたSDGsの推進

【官民パートナーシップ】

- 環境・社会・ガバナンス(ESG)投資の推進
- 地域への未来投資を推進するための企業支援
- 途上国のSDGs達成に貢献する企業・地方の支援

「ジャパンSDGsアワード」

SDGsの達成に向けて、優れた取組を行う企業・団体等を表彰するための「ジャパンSDGsアワード」の創設 (SDGs推進本部第3回会合で決定)。

- **表彰の対象**: SDGs達成に資する優れた国内外の取組を行っている, 日本に拠点のある企業・団体(企業, NPO・NGO, 地方自治体, 学術機関, 各種団体等)
- **表彰の内容**: **優れた1案件を, 総理大臣によるSDGs推進本部長表彰**, その他の4案件を, 官房長官・外務大臣による副本部長表彰とする。その他, 特筆すべき功績があったと認められる企業・団体等について, 特別賞を付与する場合がある。

第1回「ジャパンSDGsアワード」の概要

282の企業・団体が応募。全関係省庁参加のもと、「SDGs円卓会議」の構成員による「選考委員会」を開催。平成29年12月26日に第1回「ジャパンSDGsアワード」授賞式を開催。

【SDGs推進本部長(内閣総理大臣)表彰】

- ・ 北海道下川町〔自治体〕

【SDGs推進副本部長(内閣官房長官)表彰】

- ・ 特定非営利法人しんせい〔NPO/NGO〕
- ・ パルシステム生活協同組合連合会〔生協〕
- ・ 金沢工業大学〔教育機関〕

【SDGs推進副本部長(外務大臣)表彰】

- ・ サラヤ株式会社〔企業〕
- ・ 住友化学株式会社〔企業〕



第1回「ジャパンSDGsアワード」授賞式

【特別賞「SDGsパートナーシップ賞」】

- ・ 吉本興業株式会社〔企業〕
- ・ 株式会社伊藤園〔企業〕
- ・ 江東区立八名川小学校〔教育機関〕
- ・ 国立大学法人岡山大学〔教育機関〕
- ・ 公益財団法人ジョイセフ〔NPO/NGO〕
- ・ 福岡県北九州市〔自治体〕

今後の政府の取組とその発信・展開

2018年

『SDGsアクションプラン2018』に基づいて
主要な取組を実施しつつ、更に具体化・拡充し、
日本の「SDGsモデル」を構築

国連ハイレベル政治フォーラム
(閣僚級, 7月, ニューヨーク)

国連総会ハイレベル・ウィーク
(9月, ニューヨーク)

2019年
夏

『SDGs実施指針』の第1回フォローアップ

国連ハイレベル政治フォーラム
(首脳級, 9月, ニューヨーク)

冬

『SDGs実施指針』改定

G20サミット・TICADの
日本開催

2020年
以降

2030年までにSDGsを達成

東京オリンピック
・パラリンピック大会

2025年万博の招致

日本のSDGsモデルを世界に発信



これら取組・発信を通じて……

- ◆一層の普及・啓発活動を通じて、全国津々浦々までSDGsの認知度を上げる。
- ◆SDGsを具体的な行動に移す企業・地方を、政府の各種ツールを活用して後押し。
- ◆官民のベストプラクティスを通じて得られたSDGs推進の理念・手法・技術を、国内外に積極展開(各国際機関・フォーラムも活用)。

SDGsが創出する市場・雇用を取り込みつつ、国内外のSDGsを同時に達成し、
日本経済の持続的な成長につなげていく。